

視聴覚教育

NO 196

発行日
5. 10. 1

発行
岡崎市AVL

編集
広報委員会

機材委員会の報告

視聴覚部機材委員会

岡崎市立緑丘小学校

加藤 尚

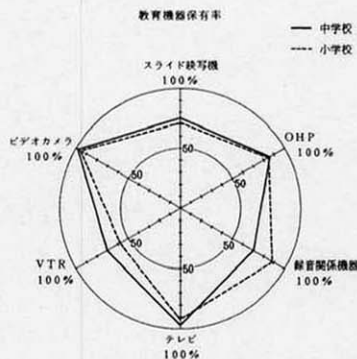
視聴覚部機材委員会では、平成五年七月末に、各学校の視聴覚機器保有状況を調査した。調査内容は、A機器保有状況、B使用頻度の高い機器、C今後の充実を希望する機器の三項目である。詳細は、年度末に刊行される「岡崎の視聴覚教育」第二十五号に掲載するが、ここでは、その概略を述べる。

A 機器保有状況

(機器保有率)

ア 小中学校を通じていえることは、テレビ、ビデオカメラの充足度が100%近くなっていることである。

イ VTRは文部省の基準数が大幅に改定されたた



め、ほとんどの学校で基準数を下回った。

ウ 録音関係機器は使用頻度の高い機器であるが、中学校で充足度がやや低い。

B 使用頻度の高い機器 (アンケートの集計より)

ア 使用頻度の高い機器

は、VTR、録音機、ビデオカメラである。

イ OHPや教材提示機の他にもビデオフロッピーやビデオプロジェクターなども、特性を生かし活用されている。

C 今後充実したい機器 (アンケートの集計より)

ア 最も多いのは、VTRである。据え置き型だけでなく、機動性を重視して8ミリビデオカメラを希望する学校が増えてきている。

イ ビデオカメラ、教材提示機といったVTRやテレビに付随する機器を希望する学校が多く、自作教材や校内放送の充実を望んでいることがうかがえる。

ウ 目新しいところでは、ビデオ編集機やビデオタイトラー、ビデオプロジェクターといった機器を希望する

学校が増えてきている。

使用頻度の高い機器	小学校	中学校	合計
VTR	31	14	45
録音機	20	7	27
テレビ	19	5	24
ビデオカメラ	9	13	22
OHP	9	7	16
教材提示機	8	2	10
CDプレーヤー	8	0	8
ビデオフロッピー	1	2	3
パソコン	0	3	3
ビデオプロジェクター	1	1	2
ステレオ	2	0	2
ビデオ編集機	0	1	1
ビデオタイトラー	1	0	1

充実したい機器	小学校	中学校	合計
VTR	18	8	26
テレビ	14	3	17
ビデオカメラ	9	6	15
録音機	8	5	13
ビデオフロッピー	5	7	12
ビデオプロジェクター	5	5	10
CDプレーヤー	8	2	10
OHP	4	4	8
教材提示機	5	3	8
ビデオ編集機	2	1	3
ビデオタイトラー	1	1	2
ワープロ	2	0	2
TTP製作機	0	1	1
ビデオプリンター	1	0	1
顕微鏡テレビ投影機	1	0	1
16ミリ映写機	0	1	1

● 教研集会報告 ●

去る九月十七日(金)、第四十三次岡崎市教育研究集会が開催された。視聴覚部会は、六ツ美北中学校視聴覚室において行われた。助言者に、愛知県教育センターの竹橋義明先生をお迎えし、参加者四十余名により、「個性を大切にし、人間性豊かな子どもを育てるための視聴覚教育のあり方を追究しよう」をテーマに熱心に報告・討論が行われた。

発表された実践レポート十六の内容を分類すると次のようになる。

- パソコンの活用 (四レポート)
 - 様々な視聴覚機器の利用 (四レポート)
 - 校内放送の充実 (二レポート)
 - 視聴覚メディアの効果的な活用 (三レポート)
 - 学校放送番組の活用 (三レポート)
- 助言者の竹橋先生より、一つ一つの報告に対して、丁寧な指導、ご助言をいただいた。また、岡崎の視聴覚教育の先進性と充実ぶりをほめていただいたうえで、次のようなご提言をいただいた。

新指導要領に基づく新しい学力観・評価観にたった授業を、視聴覚教育を通して実践してほしい。

今後いつその研鑽を誓い会を閉じた。

尚、県教育研究集会「現代文化と教育(視聴覚)」正会員には、連尺小学校の奥田修先生、矢作中学校の伊藤研治先生が選出された。



中学校放送コンテスト県大会の結果(七月三日)

- 〈ラジオ番組部門〉
 - 最優秀 「知っていますか?開元の里」(常磐中)
 - 〈テレビ番組部門〉
 - 最優秀 「福祉レポート」福祉ってなあに」(常磐中)
 - 〈アナウンス部門〉
 - 優 秀 東 富紗子(矢作中)
 - 優 良 広瀬 登和子(美川中)
 - 優 良 大河原 知子(常磐中)
 - 〈朗読部門〉
 - 入 選 近藤 真奈美(常磐中)
- 小学校放送コンテスト県大会の結果(八月二十七日)
- 〈アナウンス部門〉
 - 優 秀 花田 愛 (井田小)



ライブラリーだより

☆第5回松下視聴覚教育研究賞への応募案内

学校・社会教育において当面している課題の研究成果について、実践的研究を実施した団体へ(財)松下視聴覚教育研究財団が助成を行っています。応募する団体はライブラリーへ10月8日(金)までに申請書を提出してください。

☆科学・文化フィルム教材の紹介

- 新しい国際秩序の構築と日本の役割 外交 30分
 - 砂糖の調理科学 生活 19分
 - カナダ国立公園の旅 観光 27分
 - 私たちの北方領土 社会 30分
- 利用を希望される方はライブラリーへご連絡ください。